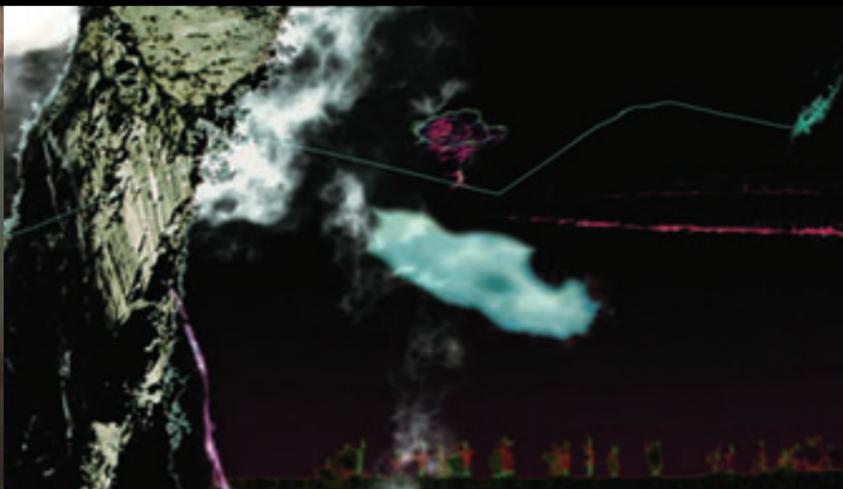


EIZO JUNCTION 2010

2010 / 11 / 21 / sun / 10:00 - 18:30



《ウム / オム 1》2005, VIDEO Hiroyuki OKI



《FAT SHADES》2008, HD VIDEO, Stereo, 16min loop ©Takao MINAMI, Courtesy of Ota Fine Arts

✿ 学生セッション ✿

発表時間 | 10:00 ~ 12:00 & 13:00 ~ 15:00 会場 | 充光館301教室

⇒ 映像学部生の研究、制作についての口頭発表（上映含む）を行います。

✿ ジャムセッション ✿

発表時間 | 15:15 ~ 16:45

✿ インスタレーション作品 → 会場 | 充光館2Fインタラクティブラボ・CGゲームラボ

⇒ インタラクティブ映像作品など体験できる発表展示を行います。

✿ ポスター展示 → 会場 | 充光館BFラウンジ

⇒ ポスター形式による研究や制作物の発表を行います。

✿ シンポジウム ✿

時間 | 16:55 ~ 18:30 会場 | 充光館301教室

⇒ アーティストの南隆雄氏と大木裕之氏をお招きし、レクチャー & シンポジウムを行います。

会場：立命館大学衣笠キャンパス 充光館

定員：170名（当日先着順）

* 入場無料

主催：立命館大学映像学会

【お問い合わせ】

立命館大学映像学部

tel 075-465-1990

http://eizogakkai.blog106.fc2.com/

e-mail eizogakkai@gmail.com

twitter アカウント rits_eizogakkai

2010 / 11 / 21 / sun

EIZO
JUNCTION
2010

私たちの周りにあふれ返っている映像。映画が誕生して100年あまりが経過し、映像の変容ぶりは目をみはるものがある。いまや、私たちの生活に映像は必要不可欠なものになっている。そして、映像は日々進化していき、今後どのような形態をとっていくのか、誰もがその行く末を気にかけている。

EIZO ジャンクションでは、映像学部での学びを通じての学生の視点、研究内容を通じての教員の視点、社会における活動を通じての外部講師の視点という三つの視点から、映像の現在と未来について考察を深めていく。

今回のEIZOジャンクション2010のテーマは「direct」。今日、あまりに多くの映像が私たちの日常を取り囲んでいる。私たちは映像を直接身体にしみこませているのではないか。「見ること聞くこと」から「体感すること」へ。3D映画の登場や、拡張現実感などの映像技術の向上により、映像を頭で理解するのではなく、身体で感じるという受容環境が加速度的に拡大している。しかし、現在の映像はこのような技術論だけで語りつくせるものではない。そうした映像の体感性を考えるために、「direct」というテーマを設定した。

program

【学生セッション】

発表時間 | 10:00 ~ 12:00 & 13:00 ~ 15:00 会場 | 充光館 301 教室

⇒ 映像学部生の研究、制作についての口頭発表（上映含む）を行う。

【ジャムセッション】

発表時間 | 15:15 ~ 16:45

✿ インスタレーション作品 → 会場 | 充光館 2F インタラクティブラボ・CG ゲームラボ

⇒ インタラクティブ映像作品など体験できる発表展示を行う。

✿ ポスター展示 → 会場 | 充光館 BF ラウンジ

⇒ ポスター形式による研究や制作物の発表を行う。

【シンポジウム】

時間 | 16:55 ~ 18:30 会場 | 充光館 301 教室

⇒ アーティストの南隆雄氏と大木裕之氏をお招きし、レクチャー & シンポジウムを行う。

南隆雄は、映像が身体に及ぼす非言語段階の、潜在的意識を呼び起こす作品を制作するメディアアーティストである。一方、大木裕之は、建築学科在籍中に始めた映画制作を通じて、彼独自の哲学探究を作品内で繰り広げていく。両者が展開する、探求の方法論と思考、そしていくつもの断片が積み重ねられた画面から立ち現れるその非日常的な時間感覚は、鑑賞者を言葉では言い表しにくい感覚で包みこみ、限りない想念の渦へと誘う。2名の作家に、制作モチーフについて、映像の体感性という切り口から講演していただき、その後、学生、教員を交えて、テーマ「direct」についてのシンポジウムを行う。

★ シンポジウムゲスト

南隆雄 Takao Minami

1976年大阪府生まれ。同志社大学文学部卒業。IAMAS在学中よりアーティストユニット「るさんちまん」のメンバーとして活動し、横浜トリエンナーレ2005等国内外の展覧会に参加。2006年より個人で発表を始め、主に映像と音響によるインスタレーション作品を制作する他、舞台美術も手がける。近年の展覧会に個展（オオタファインアーツ / 東京 / 2007, 2008, 2010）、Mind as Passion（台北市立美術館 / 台湾 / 2009）、Flickers（Goethe-Institut Hanoi / ベトナム / 2009）、The loss of the real（Selasar Sunaryo Art Space / インドネシア / 2010）。2010年11月30日より水戸芸術館にて「クリテリオム 80 南隆雄」を開催の他、12月より文化庁芸術家在外派遣研修員として渡仏予定。

大木裕之 Hiroyuki Oki

東京大学工学部建築学科在籍より映像制作を始め、卒業の翌年に製作した『遊泳禁止』がイメージフォーラム・フェスティバル1990年度審査員特別賞受賞。第45回ベルリン国際映画祭で「HEAVEN-6-BOX」がnetpac賞受賞。その後も、サンダンス映画祭、ロッテルダム国際映画祭、山形国際ドキュメンタリー映画祭など、数々の映画祭で招待上映される。さらに、ライブ上映、インスタレーション、身体パフォーマンス、ドローイング作品などにまで活動が及ぶ。「時代の体温」（1990年世田谷美術館）、「GAME OVER」（2000年ワタリウム美術館）、「How Lati-tudes Become Forms」（2003年ウォーカーアートセンター）、「六本木クッキング」（2004年森美術館）、「Out of the Ordinary」（2007年ロサンゼルス現代美術館）、「マイクロポップの時代：夏への扉」（2007年水戸芸術館）など、国内外の展覧会にも多数参加している。

会場：立命館大学衣笠キャンパス 充光館
〒603-8577

京都府京都市北区等持院北町56-1

定員：170名（当日先着順） * 入場無料

主催：立命館大学映像学会

お問い合わせ：立命館大学映像学部

tel 075-465-1990

e-mail eizogakkai@gmail.com

http://eizogakkai.blog106.fc2.com/

twitter アカウント rits_eizogakkai

立命館大学衣笠キャンパス

● JR・近鉄京都駅
市バス50 / 快速205にて(約35分)
「立命館大学前(終点)」下車
市バス205にて約35分、「衣笠駅前」下車、徒歩10分
JRバスにて約30分、「立命館大学前」下車

● 阪急電車西院駅
市バス快速202 / 快速205にて(約20分)
「立命館大学前(終点)」下車
市バス205にて約20分、「衣笠駅前」下車、徒歩10分

● 阪急電車河原町駅(四条河原町)
市バス12 / 51にて(約40分)「立命館大学前(終点)」下車

● 京阪電車三条駅
市バス15 / 59にて(約30分・市バス15は終点)
「立命館大学前」下車

access

